

平成31年度 一般選抜中期日程/国際商学科 英語
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

英語を実際に使用する能力が身についているかを見るために設問も全て英語とした。

I (160点)

問1 (16点)

【出題の意図】

全体の文章の流れに即して必要となる基本的な英単語を選び、文法的に適切な形にして答えることができるかを問う問題。この問題には文章読解力と文法能力の両方が求められる。

【解答の傾向】

問題 A は、使役動詞 let+目的語+動詞の原形(～に～させる)の形である。正答率は中程度であった。問題 B は、直前の FRENDS の同格を示すカンマ(,)で挟まれているため、a nonprofit organization を修飾する形に変形させる必要がある。語群からの選択は合っているが、語形変化の段階で supports や supported として誤るものが散見された。問題 C も、直前の Tombow Co., の同格を示すカンマ(,)で挟まれている。こちらは文意と直後の by からも分かるように受け身の形(過去分詞)に変形させる。問題 B よりは正答率が高かった。問題 D は、直前に had があることから過去分詞が続く。見慣れた形であるからか、4つのうちもっとも正答率が高かった。

問2 (14点)

【出題の意図】

‘had to change course’ となった理由を正確に読み取ることができるか問うもの。

【解答の傾向】

訳出箇所は下線部(1)直後の because nearly ~ wanted one. である。ほとんどの解答がここを指摘できていた。該当文を正確に訳出することが求められるとともに、文中の one を正しく明示できるかがポイントとなる。one は前出の名詞を指す代名詞であり、本文では a uniform (制服)を指している。意外にも正答率は高くなく、その後の展開に引っ張られて「性別にとらわれない制服」「自由に制服を選ぶこと」などを示すものが散見された(なお、文脈の面からも、学校は当初は生徒に制服を着用させるつもりはなく、「調査後」のパネル・ディスカッションの意見を経てこうした制服が採択されるに至った経緯を読み取ることができる)。また、one の形容詞要素を含ませた「1つの制服」や「統一された制服」などの誤った解答もみられた。prospective students の模範解答は「入学予定(見込み)の生徒」であるが、「在校生」「潜在的能力のある生徒」「LGBTの可能性のある生徒」「調査可能な生徒」などの文意に沿わない訳も多かった。surveyed と wanted という動詞が連続するが、この文の意味上の動詞は wanted であることはほとんどの解答で反映されていた。一方、surveyed については訳出していない解答も多く、訳していても students のみにかかっている(andの並列関係を読み誤っている)解答も多かった。

問3 (30点)

【出題の意図】

逆接、因果関係などを表現するためのつなぎのことばを適切に使用し、文法、語法にかなった短文が書けるか問う問題。

【解答の傾向】

この日本語を英語にするための基本的な構造としては、1) Although S + V, S + V、2) S + V, but S + V、3) S + V. However, S + V. などが考えられ、後の S + V の構造の中に because, since などの理由を表す節が入るように書かれていることを期待した。大部分がこの形の構文を用いていたが、以下のような問題点が散見された。1) 「苦しめる唯一の要因」the only factors hurting them(あるいは which cause them to suffer)の個所に定冠詞 the が不在のもの多数、*factors suffer them, *factors which suffer them, *factors which struggle them などのエラーが多く見られた。2) Although の節が、「重要な要因の一つである」の部分に続いておらず、「かれらはそれを始終着ることを求められている」の部分に続いておらず、ものが相当数見られた。3) 「始終」は all the time が一般的であろうが、日本語の直訳で *from beginning to end などとするものもかなりいた。4) 「着ることを求められている」は be required to wear の使用を期待したが、*they are wanted to wear, *they are seek to wear などの誤りが頻繁に見られた。

問4 (30点)

【出題の意図】

基本的な単語、文法構造を含んだ英文を正確に理解できるかどうかを問う問題。

【解答の傾向】

この問題は英語の運用力とともに、日本語の語彙力と文章力が試される英文和訳であり、解答の評価を大きく分けたのは次の2点である。

第一に、issue a notice の訳出である。issue, notice はいずれも複数の品詞をとるが、英文法が身につけていれば、その見分けは難しくない文章である。しかし、issue を「課題、問題」というように名詞で訳出する、notice を「気づく」というように動詞で訳出する解答が見られた。また、「案内を発行する」「知らせを発出する」など英単語を機械的に日本語に置き換える訳も多かった。文章の主語は「文部科学省」である以上、「通達を出す」「通知を出す」という訳文にしたい。その点で日本語の語彙、運用力が試されることとなった。

第二に、通知 (a notice) にかかる「encouraging + 目的語 + 不定詞 and 不定詞」という英文の構造が理解できているか否かである。「勇気のある学校は」など目的語を主語として訳出する、あるいは「文部科学省が改善を求め、学校が～」という重文になっている訳出が見られた。文部科学省は何をしたのか。それはどういう内容であるのか。この点を英文でしっかりと把握できていないため、本来の英文の意味からまったくはずれた解答をしているものもあった。そのほか、Ministry を「大臣」とする誤訳が目立った。

問5（20点）

【出題の意図】

前後の話の流れを注意深く読み取れているかを問う問題。

【解答の傾向】

下線部4に関連して、登場人物の考え方の根拠にあたる内容を日本語で解答する問題。学校や生徒が男性向けスカートなどこれまでとは違う制服を受け入れても、世間一般の人々が喜んで受け入れそうにないから（顔をしかめそうだから）という内容が正答となる。得点の獲得率は概ね高かった。ただし、Even if の節を正しく理解できていても、受け入れる主体を逆に書いている答案、日本語表現が不適切な答案、あるいは、問いの下線部をそのまま訳した答案などが散見された。

問6（30点）

【出題の意図】

基本的な単語、文法構造を含んだ英文を正確に理解できるかどうかを問う問題。

【解答の傾向】

新しい服装規定の導入が前向きな第一歩のように見られるが、性的少数者であることを偶発的に公表してしまうことなく、そのような手段を取ることは難しいであろうという内容が正答となる。得点の獲得率は必ずしも高くなかった。文法的にはwhileを「～の間」と訳して逆説の意味で用いていなかったり、measureを「計測」の意味で用いてサイズ計測として和訳したりする解答がみられた。全体的な傾向とも関わるが、和訳をカタカナで済ます傾向が見て取れた。ドレスコードなど文意が通じるものもあったが、一方で全身コーデ（codeを規程ではなく、コーディネートの意味でとる）など、不適切なものも散見された。

問7（20点）

【出題の意図】

前後の話の流れを注意深く読み取れているかを問う問題。

【解答の傾向】

本文中から設問に対応する箇所を見つけ出し、それを翻訳すればほぼ正解となる。ただ、disclosingの意味を正しく理解できず、「隠す」とする解答がかなり見られた。正しくは、「公開する、開示する、明らかにする」であり、これを逆の意味に理解してしまうと、正確な説明ができなくなる。また、gender identityを正確に訳せないものもかなりあった。「性の同一性」、「性の自己意識」、「性の自己認識」と訳するのが正しい。「性的なアイデンティティ」、「性に関するアイデンティティ」と訳しても正解とした。

II (40点)

【出題の意図】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見た。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、40点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。「構成」については、論理的展開になっているか、そうさせるための“discourse markers”や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

【解答の傾向】

総合的にみて、よく書けている解答が多かった。解答時間が限られているにも限らず、しっかりとした意見や理由を紹介し、その理由を完璧にはなくても、読む側がある程度満足できるレベルまで展開させている解答が多かった。ただ、「言語力」および「構成」(重なる部分はあるが)において、不満に思うところもあった。ここではいくつかの例をあげる。

- ① イントロダクションを以下のような書き方をとることで、意見を裏付ける理由が1つだけであると示しながら、ボディでいきなり2つ目、3つ目の理由をあげる解答が多かった。理由を2つ以上あげるのであれば、意見と1つ目の理由をちゃんと分けて書く必要がある。

I agree with having school uniforms because it is convenient.

I agree with having school uniforms. This is because it is convenient.

I agree with having school uniforms. The reason is that it is convenient.

このような書き方をとると理由が1つだけあるという意味合いになるので、理由を複数あげる場合、イントロダクションを I agree with having school uniforms for the following reasons にした方が無難であろう。

- ② 2つ目、3つ目の理由を and を使って紹介する解答が多かった。新たな理由をあげる時、and ではなく、in addition、second/third、another reason is that などを使う必要がある。
- ③ “If we don’t have uniforms, we will need to spend a lot of money on clothes” (もし制服がなければ、...) や “By wearing uniforms we can save money on clothes” (制服を着ることで、...) のような文章を書こうとしているのに if や by を抜かして書くものが多かった。